富山中部高校 SSH 通信

第43号

2024 年 4 月 8 日発行

新たな発見・新たな出会い

――第７回ＳＳＨオーストラリア海外研修報告――

◇期　日：令和６年３月２日(土)～11 日(月)

◇場　所：オーストラリア　ニューサウスウェールズ州
パートナー校セント・ジョン・ポール・カレッジ
コフスハーバー各地

◇参加者：本校１学年生徒７名・２学年生徒９名　計 16 名

◇引率者：奥井結子先生・中村拓彦先生

私たち 16 名は 10 日間にわたって、オーストラリアでたくさんのものに出会い、人と交流し、そこから多くの学びを得た。出発までには事前研修として、昨年の 12 月から現地での研究発表の準備をしたり、現地の地理や生物に関する講義を受けたりし、また、各自が英語で円滑にコミュニケーションをとるために英語学習に努めてきた。

私たちの本格的な異文化との遭遇は、コフスハーバー到着後から始まり、そこで初めてお世話になるホストファミリーとの出会いがあった。研修として、バディとともに、ドリゴ国立公園やドルフィン・マリン・コンサベーションセンター、ナショナル・マリン・サイエンスセンターを訪れる中で、私たちが今までに日本で学んだことを伝え、また新たな知識を英語で学ぶことができた。中でも日本との違いで印象的だったのは、セント・ジョン・ポール・カレッジでの授業だった。化学の授業では、生徒一人ひとりがテーマ設定をして実験や観察を行ってレポートを作成していたり、宗教の授業では、キリストの生涯について実演を交えた授業があったりと、日本とは異なる教科や授業形態の見聞は非常に貴重な体験となった。

一方で、生活様式や、食事、価値観や考え方などにおける日本との違いだけでなく、共通点を見つけることもできた。それは人の温かさである。ホストファミリーの方々が、英語でのコミュニケーションを助けてくださったり、身の回りのことにも気を使ってくださったりして、海外での生活に慣れない私たちにやさしく接してくださったからこそ、毎日充実した研修を行うことができた。また、セント・ジョン・ポール・カレッジの生徒たちも、とてもフレンドリーに接してくれて、休憩時間にはスポーツを一緒に楽しんだり、日本語を教えてあげたりして、とても楽しい時間を過ごすことができた。緊張や不安な気持ちと新たな出会いへの期待とともに始まったこの研修が終わり、空港でホストファミリーとの別れの時が来ると、寂しく、悲しい気持ちになったが、それぞれが８日間のホームステイの感謝を伝えることができた。

オーストラリアという多文化社会の中に身を置くことで、日本では得られない体験から考え、多くの感じたこと、新たな発見があった。特に、積極的に話をして、相手とコミュニケーションをとり、理由や根拠をもとに論理的に考えて話すという部分は、現在の私たちの学校生活でも必要だと考えている。高校生のこの時期、私たちの価値観の形成や将来の目標設定などに様々な良い影響を与えてくれたこの研修は、全員のかけがえのない思い出であり、それぞれの重要な人生の一部となった。　　(26H　山下　記)

令和5年度「とやま探究フォーラム」 報告

◇期　日：令和６年２月３日(土)13:00～16:30

◇場　所：富山大学　黒田講堂・共通教育棟各教室

◇参加者：本校代表生徒 10 名、県内中高校生、教職員　他

このフォーラムには、STEAM 教育の推進や地域等との連携による課題解決等をテーマに探究的活動を進めてきた県内 21 校から生徒代表が集まり、プレゼンテーションやポスターセッションを行ってその成果を発表した。

開会式後、大門高校によるオープニング発表があった。最先端の技術を用いて 3DCG を制作し、災害を可視化する技術に驚くとともに、実際の企業と連携し活動を広げていったという発表内容からは地域の減災に貢献しようという思いが伝わり、強く印象に残った。

各班の発表では、質疑応答を交えながら意見交換がなされていた。私たちの発表にも多くの方に参加していただくことができ、とても有意義な発表となった。様々な発表の中でも印象に残っているのは ICT を活用した探究活動である。今後の社会には ICT が深く関わってくるのだと強く感じ、今後を考える良い機会となった。

発表終了後には生徒交流会が行われた。各校の生徒たちが終始和やかに交流し、より一層親交を深めることができた。

今回のフォーラムで最も印象に残ったのは生徒の主体的な活動である。本校の生徒を含む実行委員が主体となって司会を進め、発表準備の際も各班に説明を行っていた。生徒交流会でも実行委員の企画により生徒間の交流が図られた。探究的な活動にも必要な主体性を感じられる大会だったと思う。この場で学んだことを今後の探究的活動にも活かしていきたい。　　(27H　中陣　記)

科学の甲子園全国大会参加を通して

◇期　日：令和６年３月15日（金）～18日（月）
◇場　所：つくば国際会議場／つくばカピオ（茨城県つくば市）
◇参加者：２学年生徒６名・１学年生徒２名　計８名
◇引率者：谷川潤先生・藤井泰紀先生

私たち８名は、４日間にわたり第13 回科学の甲子園全国大会に参加した。

科学の甲子園では、筆記競技と実技競技の２つの競技があり、実技競技には①～③の３種類がある。そのうち実技③は事前に課題が公開され、大会本番に向けて各チームが準備をして大会に臨む。今大会の課題は熱気球を作成し、錘を載せるなどして滞空時間を調整することで、制限時間内に昇降させるというものだった。

そこで、私たちは大会までの約２か月間、理論や数式を基に、機体の形状・作成手順などについて議論を重ねた。また、形状や錘の重さなどを変えて何度も試作機を飛ばし、データを集め分析し、試行錯誤を重ねた。

迎えた大会当日。各競技では担当のメンバーが、持っている知識を活用して、課題に一生懸命取り組んだ。そして実技③には、これまで準備してきた成果を出せるよう集中して臨んだ。しかし、外気温の違いによるデータの調整がうまくいかず、狙った通りに気球を飛ばすことができなかった。結果が振るわず、悔しい思いをした。

今大会の準備から本番までの過程を通して、私たちは「思い込みや先入観で自分の限界を決めてはいけない」ということを学んだ。準備の初期段階で、「これは実現不可能だろう」と様々な案を試行もせずに切り捨ててしまい、結果的に他県との大きな差を生んだ。実現するかどうかは分からなくとも、まず様々な方面に挑戦してみることが重要であり、そこから最適な方法や新たな発見へとつながるのだと思った。

そして、メンバー同士でのコミュニケーションの大切さを改めて実感した。本番では練習や想定とは異なることが多々あり、焦りや不安を感じることもあった。そのような時にメンバーがかけてくれた言葉のおかげで、冷静に競技に取り組むことができた。メンバーの存在に本当に感謝したい。

また、今大会からコロナウイルスの影響がなくなり、他県の生徒との交流が数年ぶりに復活した。交流する中で、どの生徒にも共通していることがあった。それは、「好きなことをとことん極めている」ということだ。自分で言語を作る人や、歌がただただうまい人など、様々な分野にわたって精通している人が多く、さらにどの人もとても輝いていた。身の回りにはいないような素晴らしい人に出会う貴重な機会になった。

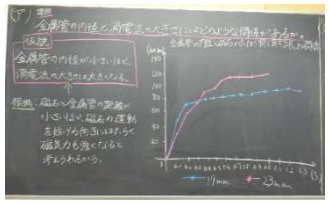
今大会を通して、かけがえのない学びや出会いがあり、参加して本当に良かったと思う。得られたものを今後の学校生活や将来に生かしていきたい。　　（27H　田近　記）

１年ＳＳ基幹探究 探究基礎Ⅱ報告

◇期　日：令和５年９月１日（金）～令和６年２月５日（月）
◇場　所：本校図書館・化学実験室・教室等
◇参加者：１学年探究科学科８１名

２学期から始まった探究基礎Ⅱの授業では、国語、数学、理科、地歴公民、英語の５教科のユニット学習を、１班約16 人の５つの班に分かれて行った。この活動は、探究力の基礎となる力である、仮説設定力、計画・実証力、考察力、表現力を身につけることを目的としている。

国語では石黒信由の古地図を用いて「奥の細道」の読解を行い、芭蕉の表現の工夫等について考察した。数学では x^n-1 の因数分解の法則を探し、それを班ごとに証明し、発表した。理科では物理分野で、自ら考えた仮説に基づき実験計画を立て、実行し、得られた結果から考察を行い、これも班ごとに発表を行った。



地歴公民では郷土史について、自分なりに課題を設定して調査し、資料にまとめた。そして英語では科学的なものから現代社会の問題まで、様々なトピックから一つテーマを選び、自分たちで調べたことをポスターに表わし、英語で発表した。

これらの活動は普段の授業に比べるとかなり発展的な内容であるため、苦戦することも多かった。しかし、班のメンバーと、お互いの得意分野を活かして助け合ったり、地道に取り組んだりすることで、自分たちの調査、研究を形にすることができた。また、そうやって分からなかったことが分かるようになっていく過程で、生徒からも「楽しい」という声や、「もっと深く研究したい」という声が多く聞こえてきた。この活動で培った探究力を、来年からの発展探究にいかしていきたい。　　（15H　松島　記）

今後の行事予定

4 月 12 日(金)　２年探究科学科オリエンテーション
4 月 16 日(火)　２年普通科探究Ⅱオリエンテーション
4 月 18 日(木)　１年探究科学科オリエンテーション
5 月 31 日(金)　２年ＳＳ発展探究課題研究指導
6 月　3 日(月)　ＳＳ講演会
6 月上旬　　人文社会講演会
7 月 20 日(土)～21 日(日)　立山自然観察実習
7 月 24 日(水)～25 日(木)　立山自然観察実習

※予定の変更にご注意ください。

記事の詳細は、本校ホームページをご覧下さい
www.chubu-h.tym.ed.jp